

令和 6（2024）年度スルメイカ秋季発生系群の 管理基準値等に関する提案

国立研究開発法人水産研究・教育機構並びに共同実施機関は、令和 6（2024）年度スルメイカ秋季発生系群の管理基準値等に関する資料の検討において、令和 7 年度以降の資源評価に必要な科学的パラメータについて議論し、以下の点を提案する。

適用する管理規則

「令和 6（2024）年度漁獲管理規則および ABC 算定のための基本指針（FRA-SA2024-ABCWG02-01）」（水産研究・教育機構 2024）で示された 1A 資源の管理規則を適用する。

管理基準値

- ・ 目標管理基準値は、MSY を実現する親魚量（SB_{msy}）で 25.5 万トン
- ・ 限界管理基準値は、MSY の 80% を実現する親魚量（SB_{0.8msy}）で 12.3 万トン
- ・ 禁漁水準は、MSY の 10% を実現する親魚量（SB_{0.1msy}）で 0.9 万トン
- ・ なお、2023 年漁期の本系群の親魚量は 9.0 万トンであり、2023 年漁期漁獲圧は目標管理基準値の達成に向けた漁獲圧（F_{msy}）を下回る。

調整係数 β

- ・ 本系群では近年低豊度の加入が続いているが、この状況が今後も継続する場合においても β が 0.35 以下であれば親魚量は 5 年後に限界管理基準値を、10 年後に目標管理基準値をそれぞれ 50% の確率で上回ると推定された。
- ・ したがって、 β の値は 0.35 以下にすることが望ましい。

その他

- ・ 再生産関係式には自己相関を考慮しないベバートン・ホルト型を適用した。パラメータ推定には最小二乗法を用いた。使用したデータは、令和 6（2024）年度の本系群の資源評価で推定された 1981～2019 年の親魚量および 1982～2020 年の加入量である。
- ・ 本系群に再生産関係を当てはめた時、近年は加入が低い年が多く確認されているため、将来予測においては、今後 5 年間は直近 5 年間のような加入状況が続き、その後徐々に過去の平均的な加入状況に戻るという仮定をバックワードリサンプリング法によって設定した。
- ・ 目標管理基準値での親魚量（SB_{msy}）で期待される漁獲量（MSY）は 24.0 万トン。
- ・ 本提案は調整係数 β を 1 から 0 の間で 0.05 刻みに検討した将来予測結果に基づく。
- ・ 本系群の将来予測における漁獲量は、日本だけでなく本系群を漁獲するすべての国の漁獲量の合計値である。